

紙ごみとプラスチックごみ

今のコーヒーショップはごみを分別して捨てるようになっており、私がよく行く店にも二つのごみ箱があります。一つには「Paper」と書かれていて、紙コップとフライドポテトの空袋が描かれています。もう一つには「Plastic」と書かれていて、プラスチックのカップの蓋とストローとマドラーが描かれています。ですから何かを食べたり飲んだりした後は、この絵を見ながら紙ごみとプラスチックごみを分けてごみ箱に入れます。難しい分別ではないのですが、私は分別したその先が気になっています。紙ごみは清掃工場に運ばれて、家庭ごみと一緒に焼却されるでしょう。ではプラスチックごみはどこに行くのでしょうか。

自宅では燃えるごみとPETボトル、それに容器包装プラスチックを分けて出しています。容器包装プラスチックは容器と包装に使われたプラスチックで、リサイクルマークがついています。プラスチックでも容器包装ではない食器やキッチン用具、洗面器や歯ブラシなどの衛生用具、文房具や玩具は、リサイクルの対象ではなくリサイクルマークがついていません。プラスチックのコップや皿にもリサイクルマークがついていないので、燃えるごみと一緒に出しますから清掃工場で焼却されているでしょう。

ではコーヒーショップのプラスチックごみは、リサイクルされるのでしょうか。アイスコーヒーのカップの蓋も、ストローやマドラーもリサイクルマークがありません。したがってリサイクルされるなら、市町村とは別の回収ルートが必要になります。また、リサイクルマークのある容器包装プラスチックは、容器のメーカーと内容物の封入事業者が再生原料化の費用を負担する仕組みがあります。一方、容器包装ではないプラスチックごみは、再生原料化の仕組みと費用負担者が明確ではありません。

もし廃棄物処理事業者が燃えるごみと一緒に焼却処理するなら、紙ごみと分ける必要はないでしょう。清掃工場で焼却処理する場合も同じで、分別する必要はないはずです。私見ですが、コーヒーショップもコンビニも紙ごみとプラスチックごみは分別せずに排出し、燃えるごみとして焼却処理すればよいと思います。そうすればごみ箱が一つ少なくて済み、利用者が絵を見ながら、時には迷いながら分別する手間と時間を省けると思います。